

## 今月の PICK UP



「1964年の東京パラリンピック」 佐藤 次郎/著 紀伊國屋書店 **780.6 サ**

1960年、リハビリテーションを学ぶため、イギリスの病院を訪れた中村裕<sup>ゆたか</sup>医師。そこで、戦争で負傷した軍人たちへのリハビリテーションの一環として、スポーツを取り入れていたルードウィヒ・グットマン博士と出会う。「手術よりスポーツを」という博士の考えに感銘を受けた中村医師は、博士が関わっていた障害者スポーツの競技会というものがあることを知り、日本でも開催したいという思いを強くする。

周囲の反対や数々の困難の中、中村医師らがどのように東京パラリンピックの開催にこぎつけたのか？その過程がつぶさに描かれている。

## 司書の おすすめ



「星を楽しむ 星座の見つけかた」 大野 裕明・榎本 司/著  
誠文堂新光社 **443.8 才**

星を眺めることは好きでも、星座はよく知らないという人は意外と多いのではないのでしょうか。本書は、各月の東西南北それぞれの空にどんな星座が見えるのか、どうやって探したらいいのかを詳しく解説しています。星の明るさや見つけ方のポイントも書かれていますので、きっとお目当ての星座を見つけられることと思います。この夏は本書を片手に夜空を見上げてみませんか。

「なんとかする工作」 青木 亮作/著 玄光社 **750 ア**

あなたに2歳の息子がいたとする。朝、仕事に出かけようとした時に、「怖い『ガオー』を作ってくれなきゃ行っちゃダメ!」と言われたら、さてあなたはどうする?そもそも『ガオー』って何だ?

2人の子どもを持つプロダクトデザイナーの父親が、知恵と工夫と段ボール+αで子どもたちからの無理難題に「なんとかした」記録。製作の報告書にはクライアント(子ども)とその母からのコメントが並び、ほんわかとした笑いを誘います。



「バッグをザックに持ち替えて」 唯川 恵/著 光文社 **915.6 ユ**



軽井沢に移住したことがきっかけで、初めて登った浅間山。そのあまりのつらさに、“もう二度と山に登らない”とまで決めたのに、その後、国内の山々、果ては5000m級のネパールの山に挑戦するほど登山にとりつかれた著者の様子や登山の魅力が描かれています。

エッセイだけでなく、登山家田部井淳子さんをモデルにした山岳小説も執筆し、本書の中で田部井さんと対面した時の様子もふれられています。

「つづくをつくる」 ナガオカケンメイ/著 日経BP社 **501.8 ナ**

ロングセラー商品はなぜ長く愛され続けているのでしょうか。その疑問を探るため、著者が様々な商品の生産現場の方々に話を聞きに行きます。「キャンパスノート」、「カルピス」、「黒ひげ危機一発」、「チョコボール」などみなさんもきっとご存知の商品ばかりです。

それぞれの商品が持つ知られざるストーリーや、作り手の考え方がわかりやすくまとめられており、どれも長く続いている理由がよくわかります。

